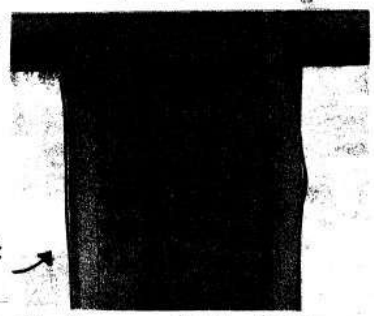
花には太陽を　子どもには平和を

ずくぼんじょ　くるみえん

発行第242回 R.3.10.11 広報委員会 小金原保育の会幼児教室

キラキラの日

年長さんの恒例行事「草ぶえの丘」へのお泊まり保育。コロナの影響で、昨年に引き続き今年も行くことが出来ませんでした。代わりに、自分達で考えた特別な一日「キラキラの日」（子ども達命名）。当日（7月14日）の様子やキラキラの日に至るまでの保護者の想いなどを伺いました。



キラキラの日に星印のついたカレンダー

「あと何回寝たらかな」と日めくりカードを作って待っていたキラキラの日です。みんなで楽しいことをしようと話すと新聞プール、いろがプール、動物園、パン屋さん、テント宇宙船など声が上がりました。青い部屋がいいね。ブルーシートもひこう。ということで海と宇宙に決定。ダンボールでロケット、スペースシャトル、恐竜と自分が入れる物や、切ったビニール袋を結んで身に付けて人魚に変身したり。隣りどおしで作ったり、2人3人とつなげたり、縦、横、上と広がっていきました。お昼は好きな場所、もちろん作品の中です。おやつも食べていい顔をしていました。陶芸教室に行くよ、とももぐみへ。講師の清水先生の話しを真剣に聞き11枚のお皿が出来上がり草笛の丘で焼き上げてもらいました。わらべうたが大好きなうさぎぐみ。7人の先生も一緒に「ふるさとおとめてはないちもんめ」いつもより大きな輪に大喜びです。宝さがし、ピザ作り花火と盛りだくさん。宝物を見付けると「七夕の願いが叶なった」「わたしも」「ぼくも」みんなの願いが天に届いた一日になりました。　大木由紀子先生

うさぎぐみ　大竹　智子

当初、保護者は草笛の丘はやりたい、やらせてあげたいと思っていました。2回目の打ち合わせで先生方や、今うんちクをされますと言われショックを受けました。年々やめる施設が増えていますし先生達の不安をどうやったら軽減できるかを母達は考えました。分散乗車策や草笛の丘までの送迎などお泊まりするにあたっての感染対策をぎんぐみだけの特別な日が出来良いことだと思ってます。

当日、遊んだ中でも宝探しが一番楽しかったそうで家でも同じことをやって何度も宝探しの話をしてくれました。ピザ生地から作り、お庭の野菜をたくさん食べたと話してくれました。とても楽しい日だったのが、すごく分かりました。

根本先生のお庭便り

消えたぶどう

うさぎ組からひばり組をとおり年も組まで伸びているぶどうの木。　根本幸子

青い小さなぶどうをみつけた年も組さんは「もうたべられる。たべたい!!」「むらさき色になったらたべようね」などくり返される会話が楽しい。今年は天候のせいかたくさんの房が色づき、今まさに食べ頃という時だった一連の作業を数カ月にシ渡り見つめて来た子どもたち、8月の夏期保育にみんなで食べられそうと楽しみにしていたのに……何という悲劇でしょう!! 一夜にしてすべてのぶどうがあと片もなく消えてしまうなんて!!

"え!! どうして、いったい何で……"ガッカリする子どもたちの多くが心の内が透けてみえる様のおどろきもでなかったのです。我に返り この取り方は鳥やカラスではない。その場で食べた後も残さず、スルスルと持ち去る手口はハクビシンに違いないと納得したのです。夏の夜の消えたぶどうの本当の言葉です。

教室の庭を舞台にさりげなく移りゆく季節の姿を自然は等しく語りかける。その不思議を感じとれる人になりたいと願うばかりである